

The English Department Newsletter

関東学院大学文学部 英語英米文学科ゼミナール連合通信 第5号 ● 2017年1月16日発行

CONTENTS

- ②第1回イングリッシュ・キャンプ開催/サービスラーニング体験記
- ③パディ体験/シェイクスピア英語劇研究会にインタビュー
- ④留学経験学生座談会
- ⑤教育実習体験記
- ⑥オープンキャンパス 国際文化カフェ/大学院生にインタビュー
- ⑦就職活動体験談
- ⑧卒論発表会/TOEIC IP試験予告/Vista

*2015年度より英語文化学科が開始しましたが、現3,4年次生は旧英語英米文学科の所属で本紙も旧名を用いています。

「ゼミナール通信」冒頭挨拶

英語文化学科長 本村 浩二

文学部英語英米文学科から国際文化学部英語文化学科に名称が変わって、今年で2年目になります。この新しい学科で増設した科目の一つに「国際交流演習」があります。そのⅠとⅡが英米地域文化探求（ハワイでのサービス・ラーニングを含む）、ⅢとⅣがイングリッシュ・キャンプです。これらは学生を学内のクラスルームから外に連れ出し、英語圏の世界に招き入れることを目的とする体験重視型の科目です。2016年度のサービス・ラーニングには13名の学生が、イングリッシュ・キャンプには25名の学生が、それぞれ参加しました。

今年のサービス・ラーニングの研修先は、ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジ。期間は2週間（9/5-9/18）。学生はハワイの歴史・文化・慣習などについてのレクチャーを随時受けながら、地域のさまざまなボランティア活動に従事しました。小学校の日本語クラスでは子供たちに昔話やお伽噺の読み聞かせをし、高齢者施設では日本の伝統文化の紹介をし、さらにはハワイの先住民の人たちにとって神聖なフィッシュ・ボンドの修復作業にも加わりました。

もう一つのプログラムであるイングリッシュ・キャンプは今年が第1回目で、夏休みの期間（8/1-8/3）、ネイティヴ教員3名が学生を引き連れて奥多摩の人里離れた山荘に2泊しました。その間、日本語の使用は一切禁止。“English Only Policy”での生活をしてもらいました。学生にとっては、英会話コミュニケーションを身体で覚える良い機会になったのではないかと推察しております。



さて、こうした新たな科目を開設する一方で、英語文化学科では昔ながらの英米文学や英語学のテキストの精読・分析を土台にした授業も維持・継続しています。われわれが目指しているのは伝統と刷新の双方が共に息づく学科です。今回のニューズレターで、本学科の多様な魅力を読者の皆さんに少しでもお伝えすることができれば幸いです。

<サービス・ラーニング・プログラムのオフの日に、学生たちとダイヤモンドヘッドに登りました。その時の記念写真です。>

English Camp

The First Annual English Camp Held in Okutama, August 1-3, 2016

As one part of the new curriculum for Kokusai Bunka Gakubu students, a three-day English Camp was successfully carried out during Summer Vacation last year. In order to prepare for the various events and performances of the Camp, students were required to attend a class (Kokusai Koryu Enshu III) during the spring semester. The 24 students who passed that class were invited to join the English Camp, a fall semester course called Kokusai Koryu Enshu IV, at a hotel near Okutama Station in the countryside of Tokyo-to.

As a rule, students could speak only English throughout the three days of English Camp. Three native-speaking instructors, Associate Professor J.T. McKim and hijokin teachers Danica Young and Naomi Sugai, strictly enforced the English-only rule during the day. A few older students of Bungaku-bu also attended as volunteers, to make students speak English at night as well.

As a rule, students could speak only English throughout the three days of English Camp. Three native-speaking instructors, Associate Professor J.T. McKim and hijokin teachers Danica Young and Naomi Sugai, strictly enforced the English-only rule during the day. A few older students of Bungaku-bu also attended as volunteers, to make students speak English at night as well. There were several small-group lessons with each of the native speakers, and students ate all meals while chatting in English with the teachers and with each other.



One of the major events of the Camp was the Speech Contest. Students performed a speech that they had memorized and practiced during the spring course. In groups, students also prepared drama performances based on scenes in their favorite movies. Other activities included English Game Night and Movie Discussion.

Prizes were awarded to some members on the last day.

We are now preparing for the 2017 English Camp. Those who wish to join the Camp in August must join and pass the spring semester course first.

See you at English Camp 2017!

(訳は次のページ)

奥多摩で第1回イングリッシュ・キャンプ開催

2016年8月1日～3日

国際文化学部の新しいカリキュラムの一部として、昨年の夏休みに3日間イングリッシュ・キャンプが行われました。キャンプの様々なイベントやパフォーマンスに備えて、参加者の皆さんは春学期に「国際交流演習Ⅲ」という科目の履修が求められました。その授業に合格した24人の学生が、東京都郊外の奥多摩駅近くのホテルで、「国際交流演習Ⅳ」という秋学期科目に相当するイングリッシュ・キャンプに参加すべく招かれました。

原則として、イングリッシュ・キャンプの3日間を通して学生は英語のみを話さなければなりません。3人のネイティブスピーカーの講師（准教授のJ.T. マキム先生と非常勤講師のダンシア・ヤング先生とナオミ・スガイ先生）は昼間は英語だけで話すという厳しいルールを実行しました。文学部の上級生がボランティアとして参加し、夜間にもキャンプの参加者が英語を話すことを確認しました。



各ネイティブスピーカーとの少人数レッスンがいくつかあり、食事時間も学生は英語で教師やお互いとチャットしながらすごしました。キャンプの主なイベントの1つがスピーチコンテストでした。学生は春の講座で覚えて練習したスピーチを行いました。グループでは、好きな映画の場面に基づいた寸劇の準備をしました。他に英語ゲーム・ナイトと映画鑑賞会の活動もありました。最終日には一部のメンバーが表彰されました。

今、2017年のイングリッシュ・キャンプを計画しています。8月にキャンプに参加したい学生は、まず春学期の授業に参加して合格する必要があります。参加をお待ちしています！

では、17年度のイングリッシュ・キャンプで会いましょう！

(英語英米文学科4年 玉村 優多)

サービスラーニング体験記

皆さんはHawaiiと聞いたら何を思い浮かべますか？日本人が多く、過ごしやすい南国のリゾート地だとイメージする方が多いのではないのでしょうか。実は、Hawaiiに住む日系人の子孫のほとんどが出稼ぎのために日本からやってきた移民でした。Hawaiiの日系人は私達のイメージする「日本人」ではなく、文化も考え方も異なった「ハワイのジャパニーズ」といった全く違った人種なのです。私はこの事実を「ハワイ文化&サービスラーニングプログラム」に参加するまで知りませんでした。今までの自分自身のHawaiiのイメージを塗り替えた貴重な体験でした。

2016年9月5日～9月18日の14日間、私達はKapi'olani Community Collegeの先生方によるHawaiiの文化や歴史やService Learningの定義などのレクチャーを受け、自然保護のボランティア活動、小学校での日本語の絵本の読み聞かせ、障害者施設での交流、介護施設での日本文化の紹介などに英語を使って取り組みました。

学生リーダーとして素敵な仲間たちと、常に相手を思いやる気持ちを忘れないHawaiiの人々の温かい心に触れ、豊かな自然を守る大切さを学べたことは自分自身の大きな成長につながりました。

(英語英米文学科4年 秦 みさき)



2017年度「国際交流演習」はイングリッシュ・キャンプとは別の科目として、英米地域文化探求のイギリス現地探訪を予定しています。詳細は2016年末に発表し、年明けの1月に最初の募集をします。春学期に現地事情を教室で研究し、9月初旬にロンドン、湖水地方を始めイギリスの各地を訪問する予定です。

バディ体験

バディ活動とは、本学のさまざまな学部・学科からの学生が、交換留学生をサポートするボランティアです。留学生が滞在する4ヶ月間、一緒に買い物をしたり観光をしたり、月に1度全体で大きなイベントを開催しています。

今年度は、全学で50名以上の学生がバディに登録しており、去年よりも活動の幅を広げることができました。特に留学生と追浜市民の方々との交流を深めるために、「Yフェスタ追浜」というイベントをおこない、留学生と共に、キャラクター釣り・ストラックアウトを企画し、多くの来場者の方々に楽しんでもらえたことで、達成感を得ることが出来ました。また共に準備等を行った留学生とバディとの距離も大きく縮まったと感じました。初めての企画でしたが、来年度に向けて新たな発見も出来、成功できて良かったと思います。

私はこのバディ活動で文化の違いを感じ、改めて日本のことを知る機会を得ることができました。だから、私は多くの留学生に日本のことをこれからも伝えていきたいと思っています。

最後に、バディに登録している学生以外にも、国際交流に興味がある方はぜひバディ活動に参加してみませんか。留学生もたくさん日本人学生と友達になりたいと思っています。国際交流を通して得られることはたくさんあると思います。

(国際文化学部 英語文化学科 2年 黒川祥右)



シェイクスピア英語劇研究会にインタビュー

今年2016年はシェイクスピア没後400年にあたります。本学には長らく学生によるシェイクスピアの英語上演の伝統があります。去る12月9、10日に神奈川県民共済みらいホールにて、関東学院大学シェイクスピア英語劇研究会による、第65回公演が行われました。今年の演目は、シェイクスピアが単独で書き上げた最後の作品と言われている、ロマンス劇『テンペスト』でした。学生たちの熱意がこもった本公演は、シェイクスピア没後400年記念にふさわしいものになりました。公演に先立って、舞台監督の宇田裕樹さん、演出で役者でもある高橋夏妃さんにインタビューをさせていただきました。

Q1. 舞台監督として、演出として苦労したことは何ですか？

宇野：連絡を取り合うことが大変でした。チーフの頃から、OB・OGの方々とは連絡を取り合っていたのですが、その方々に加えて指導陣や現役の人たちとも連絡を取り合うことが難しかったです。

高橋：3年目で演出という役割を任せましたが、どのように振る舞えばいいのか、

どのようにみんなを動かしていけばいいのかかわからず苦労した時期はありました。

Q2. 公演に向けての意気込みをお願いします！

宇野：役者もまだ台詞が入っていなかったり、スタッフの方も物が完成していなかったりしていますが、公演まであと一か月、士気を上げて成功させたいです。

高橋：だいぶ完成に近づいてきたので、楽しんでやることを第一に練習に励んでいきたいです。

練習でお忙しい中、本当にありがとうございました！

(英語英米文学科4年 野村 なつき)



留学経験学生座談会

リンフィールド大学に留学した4年生の永塚春奈さん、古川彩華さん、サスカチュワン大学に留学した4年生の新田まゆみさんにインタビューしました。

Q1. 留学しようと思ったきっかけは？

永塚：私が留学しようと思ったきっかけは高校時代にオーストラリアへホームステイをしたことからです。そこで私は自分の英語が通じる嬉しさと通じなかったときの悔しさを感じて、もう一度力試しをしたいと思ったのです。

古川：好きな英語を実際に現地に行って試してみたくて、アメリカへの留学を決めました。私自身がアメリカ文化を専攻しているので、帰国後の研究の糧にもなるかなと思い、思い切って留学に踏み切りました。

新田：客室乗務員になることが夢なので、英語力の向上と新しい文化に触れてみたかったからです。



リンフィールド大学 (アメリカ・オレゴン州)

Q2. 留学先で苦労したことは？

永塚：正直に言うと食事と天候ですかね…。(笑) 私は幼い頃からずっと英会話スクールに通っていたので、授業とかは難なくついていけましたが、日々の食事があまり口に合わず、さらに私が行った留学先は天気が毎日のように曇りで気分が落ち込んで大変でした。

新田：スピーキングです。テストでプレゼンテーションやディスカッションが定期的であり、いつも上手く話せずに困っていました。自分の英語に全く自信がありませんでした。

古川：スピーキングには苦労しました。現地に着いて最初の一週間はホームステイをしていたのですが、相手の言っていることは理解できているのに自分の言いたいことが伝えられないということがあり、自分のスピーキング能力の低さを実感しました。

Q3. 留学先での一番の思い出は？

永塚：留学での一番の思い出は、友達と自分たちだけで計画して3泊4日の旅行に行ったことです。もちろんアメリカを旅行したので、手続きからなにからすべて英語でしたが、その旅行が終わったときは達成感を感じました。

古川：一番の思い出は、毎週ボランティアに行っていた学校の生徒の子たちが、最後の授業の時にサプライズで似顔絵とメッセージを書いたポスターをプレゼントしてくれたことです。私自身このボランティアを毎週楽しみにしていたのですが、生徒の子たちも楽しみにしてくれていたのかなあと、嬉しくなりました。

新田：アクティビティでBanffに行ったことです。初日は登山で雨が降ってしまって大変でしたが、次の日は晴れて、ロッキー山脈を初めて見る事が出来てすごく感動しました。

Q4. これから留学を考えている人にアドバイスを！

永塚：留学に行きたいという気持ちがあって、留学に行けるチャンスがあるなら行くべきだと思います。気持ちさえあれば、勉強だって頑張れるし、行ってからも楽しめると思います。

古川：留学に行きたい！現地で多くのことを吸収したい！という自分の気持ちが何よりも重要だと思います。留学は生活面でも学習面でも新しいことの連続なので、楽しい反面、大変なことも多いです。自分の気持ちがしっかり前を向いていれば、壁に当たった時乗り越えられると思います。

新田：お金の面や不安に思う気持ちなど様々な悩みも多いと思いますが、行って損はないと思います。今しか経験できないことだと思いますのでぜひ行ってみてください！

貴重な体験談をありがとうございました！

(英語英米文学科4年 須藤 周作)



サスカチュワン大学 (カナダ・サスカチュワン州)

教育実習体験談

今年度教育実習を体験し、教職の免許を取得した三人の4年次生が教壇に立った経験を語りあいました。

Q1. 教育実習に行ってみていかがでしたか？

川添：不安なことや大変なこともありましたが、生徒たちと過ごす3週間はあっという間で、「教育実習が終わってほしくない」と感じる程でした。

小熊：うまくいかないことばかりで精神的にも追い込まれましたが、終わってみれば自分の人生にとってとてもいい経験になったと思います。教育実習で過ごした3週間は今でも鮮明に覚えています。それくらい濃密な3週間でした。

西野：授業だけではなく、SHR等での時間を有効に使うことが改めて大切だと実感することも出来ました。



Q2. 教育実習に行くにあたっての準備で大事なことは？

川添：クラスルームイングリッシュ、教科書の発音練習をしていきました。

小熊：教科書内容を把握することを徹底しました。

西野：指導案の準備や、授業構成を考えていきました。

Q3. 最後に今後教育実習へ行く後輩へのメッセージをお願いします。

川添：慣れないことも多々あると思いますが、とても貴重な経験になると思います。楽しむことを忘れずに、多くのことを得て帰ってきてください！

小熊：教育実習期間はとにかく我慢の期間だと思います。自分のやりたいことができなくても、うまくいなくても、我慢してやり続けなければなりません。ですから、失敗してもめげずに頑張ってください！

西野：教壇に立ったら先生を演じなければなりません。今のうちから、演じることに慣れておいてください！

(英語英米文学科4年 西野 彩茄)

今年度教員採用試験に合格・・・川添誠矢さんにインタビューしました。

Q1. 教員採用試験に向けてどのような対策をしましたか？

本学で開催されている教員採用試験の講座を受講したり、自治体の傾向を把握し準備をしたりしました。ともに教員を志している仲間たちはとても支えになり、切磋琢磨することで長い試験期間を乗り越えることができました。

Q2. 今後教員採用試験を受験する後輩へメッセージをお願いします。

先生方は親身になって私たちを応援してくれます。教員になりたいという気持ちを強く持ち続け、仲間とともに協力して試験に望んでください。勉強はもちろん大切ですが、大学生活で様々な経験をしてほかの人とは違う自分の強みを持ってください。



(英語英米文学科4年 西野 彩茄)

オープンキャンパス 国際文化カフェ



夏の暑さが厳しい8月、今年もオープンキャンパスで国際文化カフェを実施しました。国際文化カフェとは、オープンキャンパスに来ている受験生やそのご家族に飲み物とお菓子をお出しして、休憩所として使ってもらえる場です。ただ休憩してもらう事が目的ではなく、在学生在が主体となって受験生の疑問や悩みを解決し、大学生生活の醍醐味を伝えて関東学院を受験するモチベーションを高める事が大きな目的でした。



国際文化カフェでのこの時間には、説明会では聞き辛い質問ができ、大学生生活の具体的な話を聞くことができます。ここには単にオープンキャンパスに参加することだけでは得られないものがあり、受験生にとってとても有意義なものだったのではないかと思います。

受験生の中には、いくつもあるオープンキャンパス開催日の全てに参加し、「絶対関東学院に入学します!」と声をかけてくれる受験生もいて、私個人としても参加してよかったと思いました。
(英語英米文学科4年 吉澤哲也)



大学院生にインタビュー

大学院生として今年は文学研究科 英語英米文学専攻に小山内貴寛さんが在籍です。この機会にインタビューしました。

Q: 何故大学院に入学しようと思ったのですか?

中学生の頃に英語の教員になろうという夢を抱き、その夢に向けて大学に入学しましたが大学の4年間で一度その夢を諦め、自動車販売会社の営業職に就きました。しかし、その仕事を続けていくうちに元々抱いていた夢を思い出しました。その時、教育実習の際に生徒から貰ったメッセージを見て、改めて教員になろうという夢が確かな目標へと変わりました。仕事を辞めて自分で勉強をするという選択肢もありましたが、大学に所属した時も仕事をしていた時も何かを成し遂げることが出来ていたのだろうかと思いをみつめ直し、教員になる前に何か一つでも成し遂げようと思い大学院で勉強することを決めました。



Q: どのような大学院生活を過ごしていますか?

現在大学院生は私一人で、授業は基本、教授と一対一なのでより深い学びができています。また、学部生で大学院の授業に興味を持ち、実際に参加している学生もいるのでとても良い刺激をもらっています。授業以外の空き時間は勉強や読書に時間を費やす様に努めています。学部生時代から、草山先生にお世話になっていて今でも授業内だけでなくそれ以外の時間でもご指導頂いています。教職の勉強のために参加させて頂いている金森先生のゼミナールにも毎週出席していて教員を目指している学生とともに様々な知識を身に付けています。そのため学部生と過ごす時間も多く有意義な大学院生活を送っています。

Q: 学部生に一言!

将来のことなど、様々な不安があると思いますが一日一日の積み重ねが将来の自分への投資になるので、彩りのある生活を送ってください。
(英語英米文学科4年 公門孝旨)

関東学院大学大学院文学研究科には 英語英米文学専攻、比較日本文化専攻、社会学専攻 があり、それぞれ博士前期、後期課程が完備しています。入試は例年9月と2月の二回あり、次回は2017年1月10(火)～1月17日(火)の出願、2017年2月18日(土)が試験日です。推薦制度もあります。来年度以降の情報については入試課にお問い合わせください。

就職活動体験談

今年も前年同様、4年次生3名の方からそれぞれどのように就職活動を行ってきたのかをインタビューしました。

ANA エアポートサービス株式会社に内定…眞鍋那菜さん



私は航空業界に勤めることが昔からの夢でした。幼いころから飛行機に乗る機会が多く、グランドスタッフ、客室乗務員の方々がすごく身近な存在でありいつしか憧れとなりました。そこで航空業界に務めるためには何が必要なのか、どのような方々がなれるのか先輩に話を聴きに行き、企業研究を重ねました。学校の名前だけでは勝負できないと思い私は、ANA エアラインスクールに通い専門的な知識、所作などすべてを学びました。スクールで細かく自己分析をして、面接やグループディスカッションの練習を何回も重ねました。本命の航空業界の面接を受ける前に他の業界の面接をたくさん受け就職活動慣れをしました。その中でご縁のあった企業から内定をいくつか頂くことができ、本命を受ける時には内定がある安心感と慣れがあり、面接を楽しむことができありのままの自分を出すことができたと思います。就職活動をする上で、自分のことをよく知ること、体調を壊さないこと、そして就職活動期間を楽しむことが大切だと感じました。

株式会社ミニミニに内定…田中悠一郎さん



「人に何かをする仕事」を中心に就職活動をしていました。不動産業界に興味を持ったのがきっかけは、学説で就職先の企業の話聞いたことからです。始めは企業についての情報収集に時間を費やしていましたが、やはり自己分析をすることが大切だと考えて、準備を進めました。その結果、グループ面接や個人面接では自分を上手く表現することができました。また、グループディスカッションでは、自分から積極的にやることもいいですが、時には一步引いて脇役という立場から助言を出せるようになりたいと思っていました。所属しているゼミナールにおいても、プレゼンをしたり聞いたりする機会が増えたので、入社後も活かしたいです。就職活動を早く終えたくて説明会の予約をたくさん入れてしまうこともあるけど、たまには好きなこととしてゆっくり休む時間も作ってください。自分のペースを乱さないようにメリハリをつけて頑張ってください！

日産自動車株式会社に内定…神谷真夏さん



私の場合、最初は何がやりたいかが分からないまま就職活動をしていたので、業種・職種を絞らずに説明会や面接を受けていました。周囲は業種・職種を絞っていたので、このやり方で就職活動を続けて良いのか、中々内定を貰えない事に不安な日々を過ごしていました。しかし、様々な業種・職種を見ることによって色々な方とお話ができ「就職活動における軸」が出来上がってきました。初めのうちは内定を貰おうと思って就職活動しなくても良いと思いますし、周囲が内定を貰い始めたからと言って焦る必要も全くありません。最終的にどこに内定を決めるかも、就職活動を続けるかも自分次第なので、自分が納得いくまでしっかりとやることが大切だと思います。

2018年卒業・修了予定者対象 就職支援行事

- ①第2回就職ガイダンス 1月17日(火)、19日(木)お昼休み K-211 教室 3月開催の学内企業説明会参加企業冊子を限定配布。
- ②学内企業説明会 3月2日(木)、3日(金)、4日(土)、9日(木)、10日(金)、11日(土)、13日(月)、14日(火)、15日(水)、16日(木)
13:00～16:20 金沢八景キャンパス 優良企業が各日70社来校予定。

(情報提供：金沢文庫キャンパス就職支援センター)



2016 年度英語英米文学科 卒業論文発表会

今年度、英語英米文学科に提出された卒業論文の発表を開催します。
同期の4年生、来年卒業論文を書く3年生はもちろん、卒論ってどんなものだろう？と思っている1,2年生も是非ご参加を！
もちろん他学科の皆さんや先生方も大歓迎です。

日時：2017年2月2日（木）13:30～

場所：K-123 教室（予定）



英語英米文学科生対象
TOEIC-IP テスト 実施のお知らせ
実施日：2017年2月2日（木）
2016 年度卒業論文発表会同日開催
時間：9：20～12：00（予定）
場所：K-310、311 教室
受験費用：無料（2・3・4 年生対象）

英語英米文学科ゼミナール連合会

Vista No.5

▼ゼミナール通信第5号をお届けします。紙面は国際交流に関する記事が多くなりました。留学体験、イングリッシュ・キャンプ、サービスマスター体験等々です。これも国際文化学部へと生まれ変わったことによるものではないかと思えます。国際交流のプログラムが増えたことで、今までに経験できなかったことができるようになり、英語圏などの文化を現地で直接体験することも可能になったので、多くの学生が実践的に学ぶことができうれしく思います。また国内にいながらにして交換留学生との交流などできるイベントもあるので、在学生の皆さんは多くの機会を利用してください。

▼オープンキャンパスの国際文化カフェも3年目になり、本学科の事を多く広めることができ、また受験生の皆さんのお役にも立てて大変嬉しく思っています。

▼今年はシェイクスピア没後400年ですが、60年以上の歴史がある本学学生のシェイクスピア原語上演が今年度も行われました。長年続いているのでこれからもぜひ継続し、多くの人に見てもらいたいと思います。

▼2月には2016年度英語英米文学科の卒業論文発表会が実施されます。ゼミナールなどで学んだ総まとめとして取り組んだ卒業論文の発表の場になるので、皆様にはぜひ研究成果を見ていただきたいと思えます。

最後に発行に当たり多大なるご指導、ご協力をいただいた安藤先生、なまためプリントさんにはこの場を借りてお礼を申し上げます。
(英語英米文学科4年 高原彩加)

(本文中寄稿いただいた皆さんの所属および記述内容は本紙発行時の状況によっています。)

The English Department Newsletter Vol.5（英語英米文学科ゼミナール通信第5号） 2017年1月16日発行

編集：関東学院大学文学部英語英米文学科

編集協力：関東学院大学文学部英語英米文学科ゼミナール連合会

〒236-8502 横浜市金沢区釜利谷 3-22-1 TEL. 045(786)7179 URL : <http://www.univ.kanto-gakuin.ac.jp>

印刷所：株式会社なまためプリント 〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-43 馬車道大津ビル TEL. 045(641)8080